

Title	星の文藝欄
Author(s)	
Citation	天界 = The heavens (1935), 15(171): 351-352
Issue Date	1935-06-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/167047
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

星の文藝欄

星座の新感覺

稲垣 武五

星座の鑑賞は、昔ながらの神話的懷古もまた科學的分析もよいが、自分勝手に色々の直觀や聯想によつて仰空し感嘆するのも良いと思ふ。思付きを臆面もなく述べよう。

牡牛座のヒヤデス星團が東天に直立すると正しく槍岳となる、マツタールホンとみてもよい、しかもそれが西天で倒になると小狗の顔に似てくるのは可笑しい。同座のプレヤデスは寶石函でもよいが僕には蛆の集りのやうに観えるのは汚い話だ。獵夫オリオンは日本的に觀れば源爲朝であつて、馬の生皮と謂はれる部分は彼の強弓になる、すると牡牛座は大鳥へ向つた軍船でなければならない。大四邊形は爲朝が鎧を着てゐるので四角張つてゐるのだらう。またオリオンを素盞鳴尊とし、更に夏空の蝎座を八岐蛇として、ギリシヤ神話に彷彿とさせるのも面白い。が、このオリオンが西に傾いて横になると今にも壊れそうで不安でたまらない。とまれオリオンを蝶形ネクタイとする野尻氏の觀點には諸手を舉げて大賛成である。同じくこの附近の大犬座は派手な三角定規屋と思はれ、双子座のカスタールとポルクスとは横濱埠頭の入口を聯想させる。

黄昏の靄の中で古い瓦斯燈を眺めて鬼宿のプレセペを想出したことがある。その東の獅子座は全く大鎌の實感を以て迫つて來る。海蛇はその名で見るとためか何だか無氣味な星座で仕方がない。

柄杓といへば直ぐ頷けるあの北斗七星は鯛焼の鍔なんかと思ふより矢張り大柄杓の方がよい。あの中には全天を廻轉させる極軸へ流す注油が入つてゐる。丁度その口が北極^{クチ}へ向いてゐるのは好都合である。この南のアルクトウルスとスピカとは少年少女向の抒情詩に似た感傷的のアトモスフェアを醸出する半圓形の北冠座はジャズのドラムにも似てゐるし、また惡戲好きの

小兒に雷様の太鼓があると教へるのもよいだらう。が、これは直観だからやはり王冠の方がしつくりしてゐると思ふ。

夏空を飾る蝸座はその雄大な構圖と豪華な光輝とからで僕の好きな星座だ。東京に住む僕などは涼臺でや散歩の途中で、南の町並の上に直立する大蝸を眺めて、せめてもの氣ばらしにしてゐる。この毒虫蝸の實感を伴ふ星座は星々のイニシアルである。何故なら大S字だから………またこれを横にすると∞の無限大の符號になつて宇宙の神祕を語つてもゐる。しかしもつと詩的に觀れば、蝸座は寶石造の大スプーンになり、地平線から夏の供物のアイスクリームが^{セリ}迫出て來る様に思へる。

蝸座の東には玩具屋の感觸がある。といふのは、輝星だらけの射手座を仰ぐと、百貨店へ行つた小兒の様に眼を瞠つて躊躇してしまふのである。有名な七夕譚はその全部が支那よりの輸入でないといふ民俗學の研究を読んだ事があるが、その詮索は兎角として、銀河の只中に浸る矢座はロケットの模型とみるよりは、なつかしい少年時代を追想させて呉れるあのパチンコとした方がよい。

白鳥座はやはり玩具の彌次郎兵衛に似てゐる。それが西の低空で倒立すると、なんと、銀河を焰の背景とする不動明王の降魔の劔となつてしまふのはひどい變り方である。さうと東のカシオペイアは早稻田のイニシアルが好適だ。その南の天馬ペガスは土俵の四本柱にも見えるが、それが中天に懸るとあの大きなスケールの中へ何か落書がしたくなる。

最後に、昨夏南洋で南十字星を初めて仰いだが、それが傾いてゐたゝめか、十字といふ感覺は少しもなく壊れかゝつた小函のやうであつた。もし北空にあつたらば一等星があるといふ事で眼を向けさせる位であらうと思つた。

☆ ★ ☆

新 星

極端ナ遠近法ノ道路ヲ疾走スル Locket = 似タ

新星ハ夜更シノ人達ヲ驚カシテ登録サレル

.....

氣マグレナ重患者ヲ看守ル觀測者ハ體溫表ヤ

日誌ヲ作ラウトシテ首ヲ九十度ダケ曲ゲル 稻垣